

# 税務行政の 将来像を考える

## ■ 長官官房の組織

### 総務課

#### 国税庁の玄関

国税庁の窓口として、庁内の総合調整、税法のガイドライン案（通達案）などの審査、情報公開、国会との連絡調整など、その守備範囲は多岐にわたります。

### 広報広聴室

#### 国税庁のスポークスマン

納税コンプライアンス向上のため、租税教育や「税を考える週間」を通して、税の意義や役割を対外的にPRするなど、納税者と国税当局との双方向の意見交換を推進しています。

### 人事課

#### 国税庁最大の武器「人」を育てる

国税職員の採用、研修、任用などの人事業務を通して、国税庁最大の武器である「人」の確保と育成に力を注いでいます。

### 会計課

#### 予算面から税務行政をサポート

組織は「ヒト」「モノ」「カネ」で成り立っていると言われます。会計課は、予算の計画・執行、物品の調達・管理など、「カネ」や「モノ」の面から税務行政を支えています。

### 企画課

#### 税務行政のグランドデザインを描く

未来の税務行政のグランドデザインを描くため、ICTやマイナンバー制度の活用に向けた検討、電子行政の推進、海外の税務行政のリサーチなど、国税庁の「経営戦略部」としての役割を担っています。

### 国際業務課

#### 世界へと飛躍する国税庁のフィールド

税に関する国際的な枠組みづくりの検討、外国税務当局との情報交換、発展途上国に対する税務行政支援など、目の丸を背負ってグローバルな仕事をしています。

### 相互協議室

#### 巨額マネーをめぐる国際交渉

国際的に生じた「二重課税」を解消するため、外国税務当局と交渉をしています。我が国の税収の確保のため、日々エキスパート達が世界と議論しています。

## 01 国税庁の仕事

# 長官官房



国税庁 長官官房 企画課  
課長補佐（総括）

## 石澤 弘樹

平成11年入庁。財務省国際局係長、在シカゴ日本国総領事館領事、米沢税務署長などを経て平成29年から現職。

## 税務行政を取り巻く環境の変化

税務行政を取り巻く環境は、近年大きく変化している。ICTやAIが著しく進歩し、情報システムの高度化は止まることを知らない。また、行政を効率化し国民の利便性を高め公平公正な社会を実現する基盤として、マイナンバー制度が導入された。

他方、経済取引が国境を越えてますますグローバル化し、国内外を問わず資産運用が多様化する中で、国税職員の定員の減少と申告件数の増加などもあり、調査・徴収は複雑・困難化している。

## 企画課の役割

国税庁の使命は、申告納税制度の下で、納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現することである。

こうした中において、国税庁が納税者の理解と信頼を得て、

その使命を果たしていくためには、足下の環境変化に的確に対応していくことはもとより、更に将来を見据えた税務行政のあるべき姿を描いていくことが求められる。

我が企画課は、国税組織において、その将来像のグランドデザインを考え、各種課題への対応策を検討し、具体的な取組を実現していくプロセスの中心的な役割を担っている。

## 目指すべき将来像とは

皆さんは、昨年6月に国税庁が「税務行政の将来像」を取りまとめて公表したことをご存知だろうか。その内容は、AI技術の今後の進展や外部機関の協力などを前提として、現状考えられる概ね10年後の将来像のイメージを示したものであり、2つの柱が肝となっている。

1つの柱は、ICTやマイナンバーなどを活用してデジタル化を推進し、税務相談や申告・納付の手続きをスムーズかつス

ピーディなものにするなど、納税者の利便性の向上を進めていくことである。もう1つの柱は、課税・徴収の事務を効率化・高度化させるとともに、税務署における内部事務などを集中処理するといった業務改革（BPR）を推進することで、事務運営の最適化を図っていくことである。

こうした将来像を取りまとめるとある種の達成感を得るが、これは、ゴールではなく新たな挑戦の始まりである。これまでの前例や固定観念にとらわれず、柔軟かつ斬新な発想で組織体制の見直しや仕事のやり方を変革していかなければならない。それには、経験値以上に失敗を恐れないチャレンジ精神が重要となる。

チャレンジ精神旺盛で、我々と共に、この将来像を実現していく気概を持った皆さんのお越しを心待ちにしている。

